

RX E1/E20エミュレータデバugga V.1.02.00 ご使用上のお願い

RX E1/E20エミュレータデバugga V.1.02.00の使用上の注意事項を連絡します。

- FINE通信時のリセット回路に関する注意事項
- 外部RAM領域へのダウンロードの注意事項

1. FINE通信時のリセット回路に関する注意事項

1.1 内容

ユーザシステム上のリセット回路にコンデンサを付加し、起動設定ダイアログボックスの起動と通信ページで通信としてFINEボーレートを選択した場合、エミュレータデバuggaが起動しない可能性があります。

1.2. 回避策

通信形式としてFINEを選択する場合、ユーザシステム上のリセット回路にコンデンサを付加しないでください。
上記の回避策を実施できない場合は、以下のWebサイトから弊社へ相談ください。

技術問合せ : <https://www.renesas.com/support/contact.html>

2. 外部RAM領域へのダウンロードの注意事項

2.1 内容

外部RAM領域へのダウンロードデータサイズが404Hバイト~7F3Hバイトの場合、間違ったデータが書き込まれます。この時、エラーは表示されません。ダウンロードデータサイズは、以下の手順で確認できます。

- (1) メニュー「表示」から CPU -> ステータスを選択してステータスウィンドウを開く。

(2) ダウンロードモジュールをユーザシステムにダウンロードする。

注意：メモリウィンドウのポップアップメニューの「読み込み」
によってダウンロードしないでください。この方法では
ダウンロードデータサイズは確認できません。

(3) ステータスウィンドウのMemoryシートのStatus(Memory Loaded Area)
に表示されている開始と終了アドレスで、以下の計算をする。

ダウンロードデータサイズ = 終了アドレス - 開始アドレス + 1

例：

Memory Loaded Area

Test.abs	08008000-08008030	---	エリア1
Test.abs	08008100-080081A3	---	エリア2_1
Test.abs	080081A4-0800874E	---	エリア2_2
Test.abs	0800FFD0-0800FFFF	---	エリア3

補足：Memory Loaded Areaで表示されるアドレスは
昇順で表示されます。

この例の場合、以下のような計算になります。

エリア1 = $08008030 - 08008000 + 1 = 31H$ <--- 非該当

エリア2 = $0800874E - 08008100 + 1 = 64FH$ <--- 該当

注意：エリア2_1とエリア2_2は連続しているため、
1つのエリアとして計算する必要があります。

エリア3 = $0800FFFF - 0800FFD0 + 1 = 30H$ <--- 非該当

この結果から、エリア2が404Hバイト～7F3Hバイトに該当し、
誤った書き込みが発生します。

2.2. 回避策

ダウンロードデータサイズが404Hバイト～7F3Hバイトにならないよう
ダウンロードモジュールを作成してください。

上記の回避策を実施できない場合は、以下のWebサイトから弊社へ相談ください。

技術問合せ：<https://www.renesas.com/support/contact.html>

3. 恒久対策

12月16日付けツールニュースで案内する予定です。

用語説明：

「FINE」とは、ユーザピンを使用せずモードピン（MD/FINED端子）のみで通信する1線式またはモードピンと追加のユーザポート1本を使用した2線式により、ポートの占有を最小に抑えたデバッグが可能な通信インタフェースのこと。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.